

学生の衣生活に関するライフスタイル (第3報)

—— 秋冬物について ——

早坂美代子・原田 妙子

Life Styles and Clothing Habbits of the College Students (Ⅲ)

Autumn and Winter Clothes

Miyoko HAYASAKA and Taeko HARADA

緒 言

科学技術の進歩は著しく、今や急成長を遂げたアパレル業界では、現場におけるコンピューターの導入による生産システムの開発、合理化が進み、製品も多品種少量化へと移行しつつある。その中で、自分自身を見つけ、より個性的に装おうと試行錯誤を続ける若者達は、どのようなライフスタイルを作ろうとしているのであろうか。そこで、衣生活面において何らかの手掛かりを得るために、第1報では、学生達がどの程度ファッションに関心をもっているのか、その情報は何かから得ているのか、流行やT・P・Oなどの着装面でどのような意識をもっているのかについて¹⁾を、また第2報では、購買行動について、場所、時期、購入時のポイント、費用、所持枚数等²⁾を、春夏物を中心に把握することができた。

そこで、本報では、秋冬物を中心に着装面においての意識や購買行動についての概要を把握し、季節によってどのような差があるのかを知るために、調査を行い検討を試みた。

方 法

対象は、第1報・第2報と同様、本学短期大学部家政科の学生601名である。

調査は、平成元年1月に行った。

方法は、前報同様アンケート用紙による集合調査法で、回収率は90.7%であり、それぞれの内訳は、表1に示すとおりである。なお、これ以後の表および図中のクラス名は、服飾デザインクラスを「服」、被服科学クラスを「被」、食物コースを「食」とし、2年次学生を「2」、1年次学生を「1」と省略して用いることとする。

調査内様は表2に示すように、季節により影響されると考えられる項目を選び、ファッションの情報源、DCブランドの利用状況、T・P・Oによる着装面での意識、購入時のポイント、被服費、服種別の所持枚数等を、秋冬物に

表1 有効回収数

	2服	1服	2被	1被	2食	1食	合計
有効回収数 (人)	86	88	96	81	99	95	545
回収率 (%)	92.5	94.6	89.7	96.4	88.0	88.0	90.7

表2 調査内容

1 (1). ファッションに関する情報を何から得ますか	2 洋服の購入について
ア ファッション雑誌	(1) 秋冬1シーズンにかけた被服費はどれくらいですか
イ. ファッションショー	(2) 何を基準に考えて購入しますか (4つ以内を選び、順位をつけて下さい)
ウ. テレビ	ア デザイン カ 機能性
エ. 専門店	イ. 色 キ サイズ
オ. 他人の服装	ウ 縫製 ク 組み合わせ
カ. 家族・友人	エ. 素材 ケ その他
キ その他	オ 価格
(2) DCブランドを知っていますか 買ったことがありますか。	3 次の服種の所持枚数は、どのくらいですか
ア 買ったことがある (ブランド名を挙げて下さい)	(1) ワンピース
イ 買ったことはない	(2) スカートを
(3) 時間や場所によって着るものを選んでいきますか	(3) フラウス
ア. とても考える	(4). セーター
イ. やや考える	(5). パンツ
ウ. あまり考えない	(6). シャケット
エ. 考えない	(7) ツーピース
	(8) コートを

関してアンケートを行った。

集計および分析方法は前報同様、調査データを項目別、クラス別に単純集計およびクロス集計し、学生やクラスによる特性を明らかにするとともに、季節による意識の比較検討を行った。

結果および考察

1. ファッションに関する情報源

全体を見ると、ファッション雑誌が92.7%とほとんどの学生が情報源として利用しており、これは春夏と同様、生活全般にわたっても幅広い情報を得るためにファッション雑誌を利用している若者の特徴を表す結果であるといえる。次いで、専門店から、テレビから、他人の服装を見て、となっており、家族や友人から、ファッションショーからと続いている。多少春夏の順位と異なってはいるが、一年を通して、若い女性のファッションに関する情報源は同傾向を示している。

次に、各項目のクラス別集計結果を図1に示した。

まず、ファッション雑誌からと答えた学生は、1年被服科学クラス95.1%、2年服飾デザインクラス94.2%、1年服飾デザインクラス93.2%、2年食物コース91.9%、2年被服科学クラス91.9%、1年食物コース90.5%であり、どのクラスにおいても90%以上の高率を占めている。テレビから、専門店からと答えたのは、クラス別には服飾デザインクラスが若干多いものの、どのクラスも1年次学生より2年次学生の方が上回っていた。他人の服装を見て情報源として

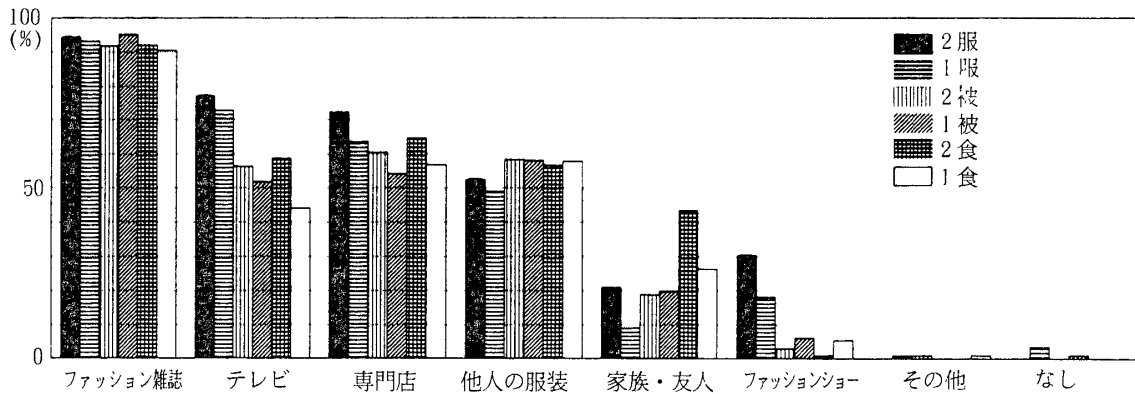


図1 ファッション情報源

いるのは、全クラスの約半数の学生であり、家族や友人から得るよりも高い割合を示している。これは、個性化の時代と言われながらも、人と違ったことは受け入れない現代の若者の性格を表すことのひとつと考えられる。ファッションショーからと答えたのは、服飾デザインクラス2年次学生が30.2%、1年次学生が18.2%であり、他のクラスはほとんどない。他クラスの結果は春夏と同じであるのに対して、服飾デザインクラスの学生が増加していることは、前報で調査してから7ヶ月が経過しているために、専門を学ぶクラスとして、ファッションショーを見る機会が多かったことによるものと思われる。

2. T・P・O

図2は、T・P・Oによって洋服をどの程度考えて着装しているかを示した図である。

非常に考える、あるいはやや考えると答えた学生は、全てのクラスで84%以上と多く、全く考えないと答えたのは、僅か1人の0.2%であり、社会の一員である女子大生としての意識をもっていることが、春夏と同様に表われている。また、非常に考えると答えた学生の割合が、24.3%であった春夏に対して、秋冬の方は18.9%と減っている。これは、Tシャツなどのカジュアル性の高いものが普段着として多く用いられる春夏物の場合、そのままどこでも通用するものではないと学生たちが考えているであろうこと、また、綿という素材がカジュアルな印象を持って

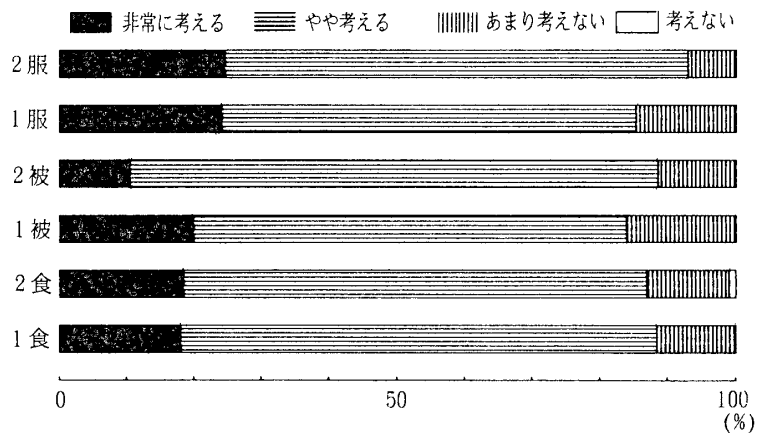


図2 T・P・Oをどのくらい考えるか

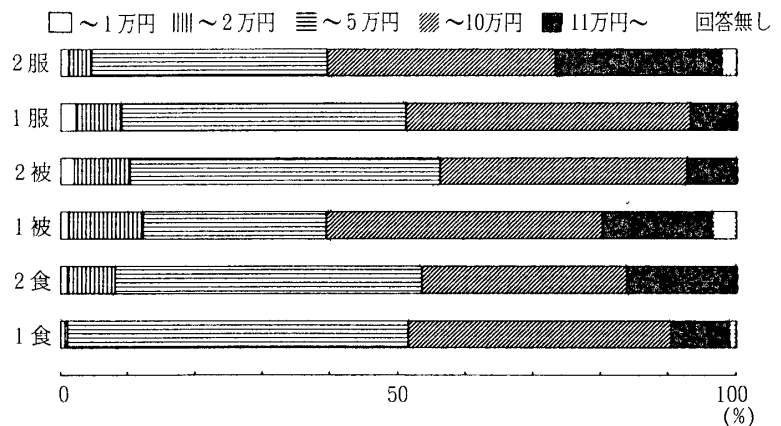


図3 秋冬1シーズンにかけた被服費

いることなどが理由として考えられる。

3. 被服費

図3は、調査した年の秋冬1シーズンのうちで洋服購入のために使った費用の結果であり、クラス・学年別に表したものである。

「2～5万円」が最も多く、その割合は全体で41.4%である。クラス別には、1年食物コースの50.5%、2年被服科学クラスの45.8%、2年食物コースの45.5%と続くが、「6万円以上」と答えたのは、2年服飾デザインクラスで58.1%、1年被服科学クラスで56.7%となっており、更に2年服飾デザインクラスでは、11万円以上使ったものが24.4%と他のクラスに比べて高い割合を示している。

次に、春夏の1シーズンに使った購入費用と比較してみると、全体で「2万円以下」であった者は、7.5%と約半分の割合になっており、1年被服科学クラス、2年食物コースでは、ほぼ同値、その他4クラスでは、かなり少ない値となっている。また、それに伴い、6万円以上使った学生は、どのクラスにおいてもかなり高い値を示している。これは、綿素材のものが多い春夏物に比べて、秋冬物に羊毛素材が多いことと、代表的な服種が、ブラウス+スカート、ブラウス+パンツ、ワンピースであるのに対し、セーター、ジャケット、コート等の価格のかさむ物が加えられることが、被服の購入費用に影響しているものと考えられる。

4. DCブランド

図4は、秋冬物においてDCブランドを買ったことがある学生の割合を示したものである。

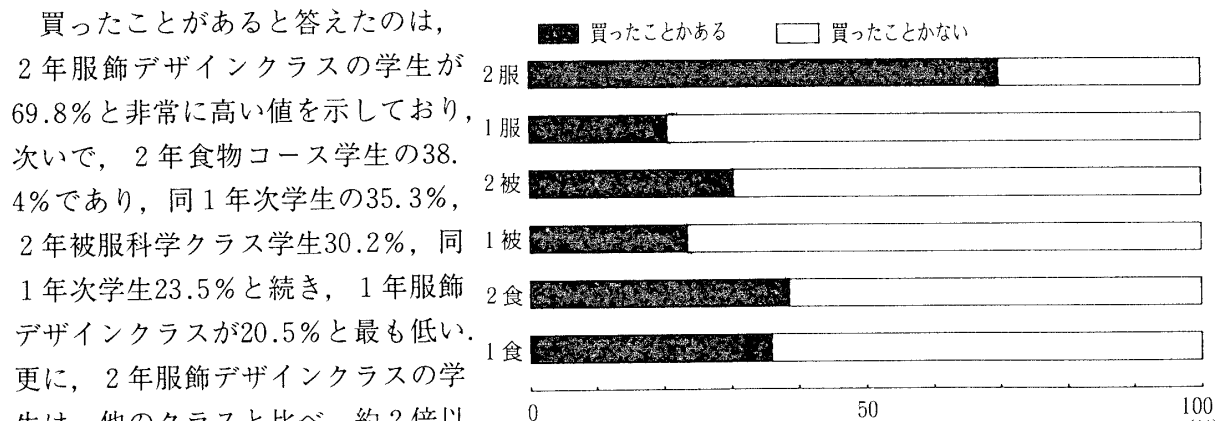


図4 DCブランドの購入

買ったことがあると答えたのは、2年服飾デザインクラスの学生が69.8%と非常に高い値を示しており、次いで、2年食物コース学生の38.4%であり、同1年次学生の35.3%、2年被服科学クラス学生30.2%、同1年次学生23.5%と続き、1年服飾デザインクラスが20.5%と最も低い。更に、2年服飾デザインクラスの学生は、他のクラスと比べ、約2倍以上の割合を示しており、春夏物と同様、2年間の専門知識を学んだ影響が大きいようである。また、1年次学生より2年次学生の方が、高い割合を示している。しかし、全体の春夏と比べると、低い値を示しており、これは、一時期人気のあったDCブランドに陰りが見えてきたことに加えて、普通でも一般の商品より高価とされているDCブランドにおいて、素材面でもジャケットやコートなど1点あたりの価格が高いことが、購入しにくいという結果につながったものと推察される。

5. 購入時における選択基準

被服の購入時における選択の基準を、8項目の中から4位まで選んでもらい、項目毎のクラス別集計結果を図5に示した。

「デザイン」を選択基準として1位を選んだのは、2年服飾デザインクラスが76.7%と非常に高く、次いで1年服飾デザインクラスが58.0%、2年被服科学クラスが52.1%と、専門を学んだクラスの学生が50%以上の割合を示し、1年被服科学クラスの学生も、春夏物に比べかなり増えていることに注目される。4位までの合計では、やはり服飾デザインクラスが1・2年

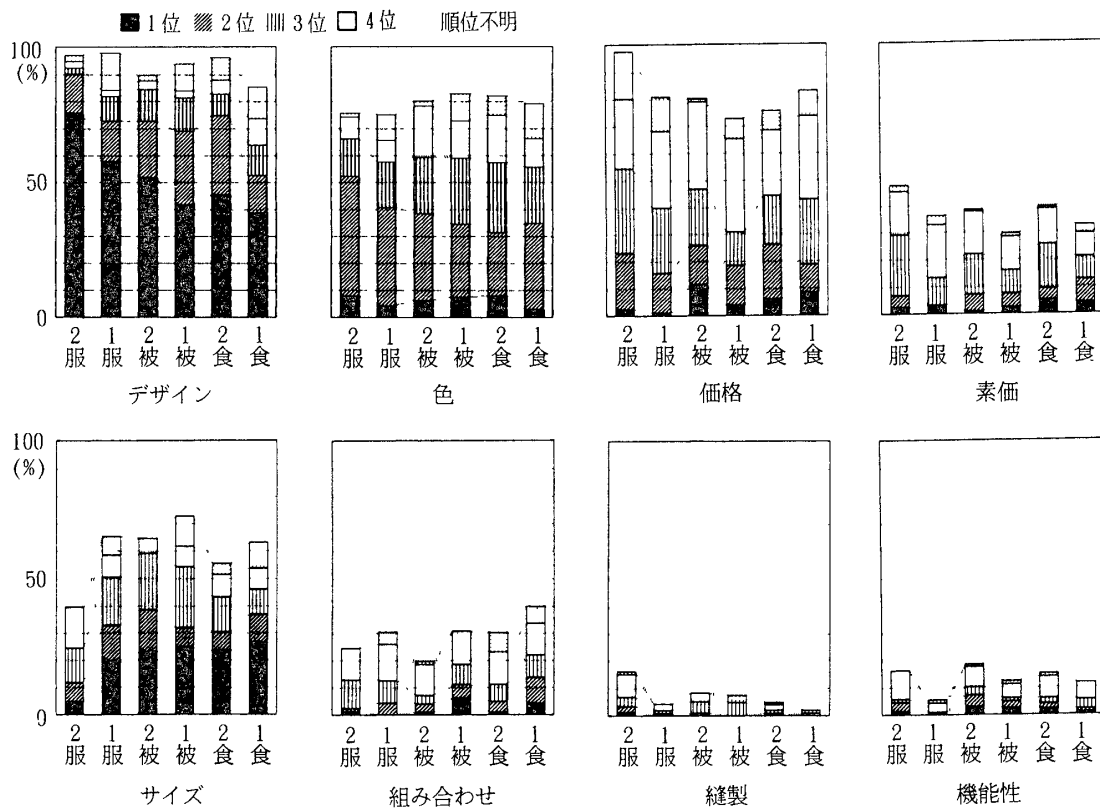


図5 購入時の選択基準

次学生共97.7%と最も多く、他のクラスも85%以上と高い値を示している。春夏の調査結果と比較しても、ほとんど差は認められない。

次に「色」を選んだ学生についてみると、2位に挙げた学生が最も多く、2年服飾デザインクラスが44.2%、1年服飾デザインクラスが36.4%と3位に選んだ者の2倍以上であり、「デザイン」に続き「色」が選択基準の上位を占めている。また、4位までに選んだ者も全てのクラスで75%以上あった。

「価格」を重視する者は、服飾デザインクラス2年次学生に多く、4位までに挙げたのは、春夏で73.9%であったのに対して、97.7%と「デザイン」を選んだ者と同じ割合を占めている。また、他のクラスは春夏と同傾向であり、73~83%と高い値を示している。「デザイン」では1位が、「色」では2位が多かったのに対して、3位、4位の割合が高い。

「素材」については、3位、4位として選択基準として挙げた者が多く、約3分の1の学生がある程度重視している。春夏物についても言えたように、1年次学生にくらべ2年次学生が高率を示している。

「サイズ」について見ると、春夏と同様、2年服飾デザインクラスの39.5%を除いて、55.6~72.8%とかなり高い値であり、その中では1位としている者が多い。

「組み合わせ」を考えて選択している者については、3分の1に近い学生が4位までに選んでいる。その中で、春夏においては3位、4位が多かった反面、秋冬では4位に選んだ者が多い。

「縫製」においては、選んだ学生が極めて少ないが、春夏に比べると、僅かではあるが増加している。また、2年服飾デザインクラスの学生のみが、16.3%と10%以上の値であり、一部の学生においては、被服構成実習を履修したことにより、既製品の縫製を見る目を養うことが

表3 所持枚数 (秋冬物)

(%)

服種	枚数	2服	1服	2被	1被	2食	1食	合計
ワンピース	0	11.6	18.2	20.8	16.0	13.1	28.4	18.2
	1	9.3	20.5	37.5	33.3	20.2	27.4	24.8
	2~5	69.8	56.8	38.5	44.4	56.6	37.9	50.5
	6~10	9.3	2.3	3.1	4.9	7.1	5.3	5.3
	11~	0	0	0	1.2	0	0	0.2
	不明	0	2.3	0	0	3.0	1.1	1.1
スカート	2~5	41.9	28.4	47.9	35.8	36.4	36.8	38.0
	6~10	48.8	60.2	47.9	55.6	48.5	49.5	51.6
	11~	9.3	11.4	4.2	8.6	15.2	12.6	10.3
	不明	0	0	0	0	0	1.1	0.2
ブラウス	1	0	0	1.0	1.2	3.0	1.1	1.1
	2~5	53.5	45.5	58.3	46.9	46.5	46.3	49.5
	6~10	38.4	46.6	37.5	45.7	37.4	45.3	41.7
	11~	8.1	8.0	2.1	6.2	13.1	6.3	7.3
	不明	0	0	1.0	0	0	1.1	0.4
セーター	0	1.2	0	0	0	1.0	0	0.4
	1	4.7	0	0	3.7	0	0	1.3
	2~5	54.7	62.5	65.6	71.6	67.7	52.6	62.4
	6~10	31.4	29.5	30.2	23.5	27.3	38.9	30.3
	11~	8.1	8.0	3.1	0	3.0	6.3	4.8
	不明	0	0	1.0	1.2	1.0	2.1	0.9
パンツ	0	5.8	3.4	1.0	4.9	3.0	10.5	4.8
	1	9.3	5.7	11.5	11.1	16.2	11.6	11.0
	2~5	65.1	72.7	78.1	77.8	70.7	58.9	70.5
	6~10	18.6	15.9	7.3	6.2	9.1	15.8	12.1
	11~	1.2	2.3	2.1	0	0	2.1	1.3
	不明	0	0	0	0	1.0	1.1	0.4
ジャケット	0	2.3	1.1	1.0	0	2.0	1.1	1.3
	1	7.0	5.7	12.5	18.5	7.1	11.6	10.3
	2~5	75.6	89.8	83.3	75.3	80.8	81.1	81.1
	6~10	15.1	3.4	2.1	6.2	9.1	4.1	4.2
	11~	0	0	1.0	0	1.0	1.1	1.1
	不明	0	0	0	0	0	1.1	1.1
ツーピース	0	5.8	9.1	3.1	6.2	6.1	12.6	7.2
	1	11.6	20.5	18.8	38.3	22.2	31.6	23.7
	2~5	74.4	65.9	72.9	53.1	65.7	48.4	63.5
	6~10	5.8	4.5	3.1	2.5	6.1	4.2	4.4
	11~	2.3	0	2.1	0	0	0	0.7
	不明	0	0	0	0	0	3.2	0.6
コート	0	1.2	2.3	5.2	1.2	2.0	6.3	3.1
	1	12.8	25.0	25.0	30.9	32.3	25.3	25.3
	2~5	82.6	69.3	67.7	66.7	64.6	64.2	69.0
	6~10	2.3	3.4	1.0	1.2	1.0	3.2	2.0
	11~	1.2	0	1.0	0	0	0	0.4
	不明	0	0	0	0	0	1.1	0.2

※各クラスの有効回答数を100%とする

できたのではないかと考えられる。

「機能性」を重視する者は、「縫製」と同様極めて低率を示しているが、春夏に比べ僅かに高くなっている。

以上のことより、ほとんどの学生が、デザイン、色等の感覚面を非常に重視しており、その上で自分に合ったサイズを選び、より一層个性的に装うと共に、ある程度の枠から出ないように価格や素材等を考えているようであり、服飾デザインクラスの学生は縫製にも目を向けている。購入時の基準は、季節による差よりも、前回の調査から7ヶ月間経過したことによる変化やファッションの面での専門知識の学習によるクラス毎の差、また1年次学生と2年次学生との学年による差が顕著に表れている。

6. 所持枚数

ワンピース、スカート、ブラウス、セーター、パンツ、ジャケット、ツーピース、コートの8種類の服種別による各自の所持枚数を、クラス、学年別に示したものを表3に示した。

まずワンピースでは、2～5枚所持している者が多く、2年服飾デザインクラスで69.8%、1年服飾デザインクラス56.8%、2年食物コース56.6%、1年被服科学クラス44.4%、2年被服科学クラス38.5%、1年食物コース37.9%となっている。しかし、2年被服科学クラスが58.3%、1年食物コースが55.8%、1年被服科学クラスが49.3%とかなり多くの学生が0か1枚であり、ワンピースをほとんど持っていない学生は、どのクラスでも春夏に比べて高い割合をしめている。

次にスカートについて見ると、全ての学生が2枚以上は所持しており、6～10枚と答えた学生が多かったが、春夏では全体の58.4%であったのに対し、51.6%とやや少なく、代わって2～5枚と答えた学生が26.5%から38.0%と多くなっている。

ブラウスについても、春夏で60%以上の学生が6～10枚と答えているが、秋冬では2～5枚を所持している者の方が多く49.5%であった。ワンピース、スカート、ブラウスの3種については、一人が所持している枚数は、いずれも春夏物に比べ秋冬物の方が少ないようであり、クラス別の差はない。

セーターについては、2～5枚所持している学生が最も多く62.4%であり春夏と同傾向であるが、6～10枚と答えた学生が前回のほぼ倍近くとなり30.3%もあり、90%以上の学生が2～10枚のセーターを持っている。ブラウスに代わりセーターは、クラスにかかわらず学生にとって冬の代表的なアイテムとなっているようである。

パンツについては、2～5枚所持している者が多い。しかし、クラス別に見ると、前回6～10枚の割合が他のクラスより多かった2・1年服飾デザインクラスや1年食物コースでは今回の調査でも多い。季節別に見ると、春夏物に対して秋冬物の方が少ない。このことは、パンツを防寒の意味で着装するより、ファッションとして着装していると考えられる。

ジャケットについては、春夏で0か1枚であった者が11.6%と半数になり、2～5枚の者は81.1%、6～10枚の者が6.6%と多くなっている。クラスによる差はあまりないが、2年服飾デザインクラスで所持枚数の多い学生の割合が、若干高いようである。

コートは2～5枚を所持している学生が多く、2年服飾デザインクラスが82.6%と非常に高率であり、その他のクラスも64.2～69.3%である。次に1枚と答えた学生が続く。所持していない学生は3.1%、逆に6枚以上もっている学生は2.4%と少ない。若い女性はコートにおいても2枚以上所持し、T・P・O等に合わせて着装しているようである。

春夏と同様、ワンピースを所持していない学生が多く、ブラウスやセーター、スカートとい

った単品で組み合わせられる物が多く所持されている。更に、セーター、ジャケット等の秋冬に必須ともいえる服種の所持枚数も多く、逆にパンツが少ない。また、コートは2枚以上持っている学生も多いなどのことから、着装において、比較的「おしゃれ心」を持って、ライフスタイルを築いているように思われる。

要 約

若い女性の衣生活面におけるライフスタイルを把握するために第1報、第2報では、春夏物に関して、ファッションに対する関心が非常に高く、購買行動の面においても、学生であり一消費者として、新しいライフスタイルを求めつつあることが見受けられた。

そこで、本報においては、秋冬物に関する意識を調査するとともに、季節による差を把握するためにアンケート調査を行った。

まず、ファッションに関する情報源は、一年を通して生活全般の情報が得られるファッション雑誌であり、専門店やテレビ等のマスメディアによる情報も重視している。また、他人の服装にも目を向けており、T・P・Oによって着装を考えていることから、社会の一員としての自分がある程度意識しているように思われる。被服費についても、6万円以上使ったものが約半数を占めており、春夏に比べ秋冬の方が多くの費用をかけている。また、一時人気のあったDCブランドは陰りが見られ、高価なこともあって、購入が控えられてきている。選択基準としては、ほとんどの学生が、デザイン、色等の感覚面を非常に重視しており、更に自分のサイズに合ったものを選んでいく。洋服の所持枚数は、一年を通してワンピースが少なく、機能性の面からも組み合わせの効く単品物が多いようである。

現代の若い女性は、このように衣生活面においても個性的に着装しようとしながらも、他人を意識したライフスタイルを築いていることが明らかになり、その概要が把握できた。今後、被服構成の指導法についての手掛かりを得るため、更に研究を進めていきたいと考える。

文 献

- 1) 早坂美代子, 原田妙子: 名古屋女子大学紀要, 35, 25 (1989)
- 2) 早坂美代子, 原田妙子: 名古屋女子大学紀要, 35, 33 (1989)